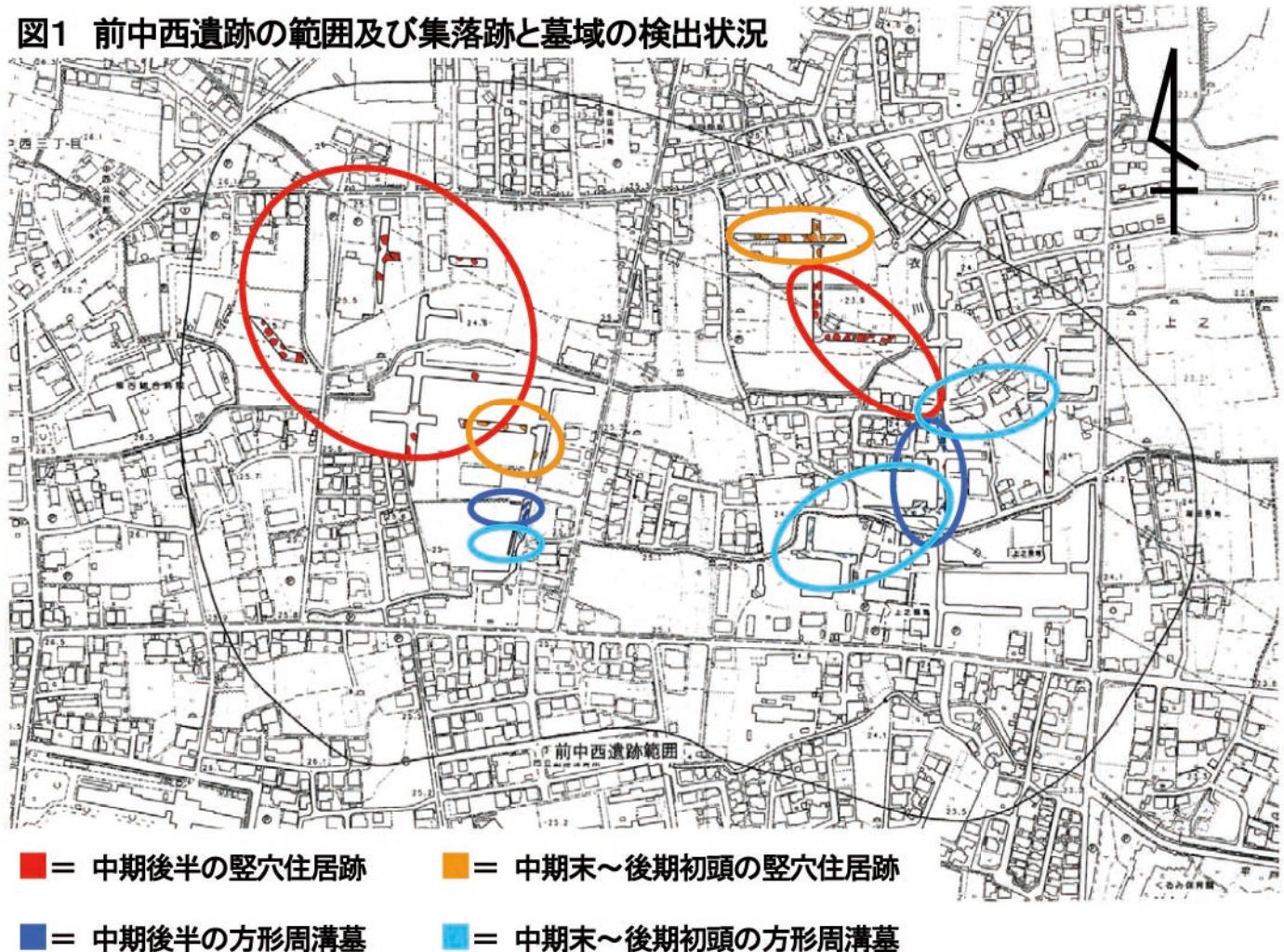


わが街熊谷遺跡めぐり 前中西遺跡

まえなかにしいせき 前中西遺跡は、市内上之に位置し、平成8年度から区画整理事業に伴い、発掘調査を行ってい
かみの くかくせいりじぎょう ともな はっくつちょうさ おこな
ます。遺跡は弥生時代（約2,000年前）から江戸時代（約300年前）まで続く複合遺跡（異なる時
やよいじだい やく ねんまえ え どじだい ふくごういせき こと
代の痕跡が認められた遺跡のこと。）ですが、このうち最も多く見つかっているのは弥生時代です。
こんせき

ちゅうきこうはん 前中西遺跡の弥生時代は、中期後半（約2,000年前）から後期初頭（約1,900年前）までの時期
こうきしょとう に相当し、出土した遺物（土器や石器など）の特徴から中期後半段階と中期末から後期初頭にかけて
そうとう いぶつ どき せき とくちょう ほんい
の段階の2つに大きく分けることができます。これまでに行った調査の結果、主に遺跡範囲の北側に
じゅうらくあと ほいき じょじょ
集落跡、南側に墓域が広がっていることが徐々に明らかになってきました（図1）。

図1 前中西遺跡の範囲及び集落跡と墓域の検出状況



○弥生時代の集落跡について

遺跡範囲北側に広がる弥生時代の集落跡は、これまでの調査により約70軒の竪穴住居跡が見つか
けん にてあじゅうきょあと
っており、大規模かつ広範囲に暮らしていたことが明らかになってきました。段階別による検出数の
だいきぼ こうはんい く だんかいべつ けんしゅつすう

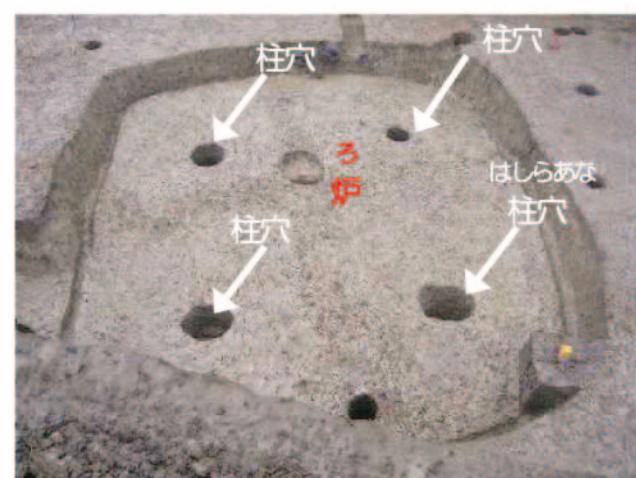
うちわけ
内訳は中期後半が45軒、中期末から後期初頭にかけてが25軒です（平成22年5月現在）。

一軒の竪穴住居跡の規模は5m前後のものが多く、平面形は橢円形と隅丸方形のものがあります。

そして床からは柱を建てた穴や火を焚いた炉などが確認されました。



前中西遺跡の弥生時代集落跡



弥生時代の竪穴住居跡

○弥生時代の墓域について

遺跡範囲南側に広がる墓域からは、方形周溝墓と呼ばれる成人用と土器棺墓と呼ばれる乳幼児用のお墓が見つかっています。方形周溝墓とは周囲に四角く溝を掘り、真中に土盛りをして遺体を埋葬するお墓のことをいいます。土器棺墓とは名前のとおり、土器を棺として使用したお墓のことをいいます。これまでに行った調査の結果、方形周溝墓は約20基、土器棺墓は8基見つかっており、段階別による内訳は、中期後半の方形周溝墓が10基、土器棺墓が3基、中期末から後期初頭にかけての方形周溝墓が10基、土器棺墓が5基です（平成22年5月現在）。



方形周溝墓(成人用のお墓)



土器棺墓(乳幼児用のお墓)

○出土遺物について

豎穴住居跡などからは、たくさんの遺物が出土しています。土器は貯蔵用の壺、煮炊き用の甕、お供え用の高坏、飲食用の椀などがあります。石器は打製石斧(石を打ち欠いたままのゴソゴソした斧)、磨製石斧(石全面を磨いたツルツルした斧)、石鏸(弓矢の矢の先につけたとがった武器)などがあり、打製・磨製石斧は木を切るためや土を掘るために、石鏸は小動物を捕まえるために使用されました。また、これらの生活道具以外にも特殊な遺物(石戈、翡翠製の勾玉と首飾り、土偶型容器)が出土しており、石戈は一部のみの出土ですが、関東地方では群馬県に次いで2例目となる大変貴重な発見です。戈とは昔の中国で使用された武器の1つで国内では九州や近畿地方などで銅製のもの(「銅戈」)が多く出土していますが、石戈とはこれらを模倣して作られたものです。翡翠製の勾玉と首飾りは、翡翠が新潟県でしか採れないものであることから前中西遺跡の弥生人たちが新潟方面の人々と交流を持っていたことを物語る貴重な遺物です。土偶型容器とは縄文時代の土偶が弥生時代に容器の形に変化したもので、1つの遺跡から土偶型容器が5つも出土するのは全国でも珍しいことです。



完形の壺が出土した様子



つぶれて出土した壺(左)と壺(右)



打製石斧が出土した様子



磨製石斧が出土した様子



弥生時代中期後半の土器

※壺(左)・甕(中)・高坏(右)



弥生時代中期末～後期初頭の土器

※壺(左3個)・甕(右1個)



打製石斧(左)・磨製石斧(右)



翡翠製の勾玉(左)と首飾り(右)



石戈



土偶型容器(顔)



土偶型容器(腕)

平成 22 年 5 月 16 日発行

熊谷市立江南文化財センター（熊谷市教育委員会社会教育課文化財保護係）

— わが街熊谷遺跡めぐり — 「前中西遺跡」 企画展解説書 第6集